

百二十六年の伝統に幕を閉じる

東大更小学校の閉校記念式典と
い出を語る会が3月23日、同校の講
堂で開かれました。

当日は、卒業生である地域の住民
や学校関係者ら約270人が出席
し、百二十六年という長い歴史を持
つ同校の幕引きを見届けました。

式典では、関係者からのあいさつ
の後、全校児童24人が思い出の言葉
を発表しました。そして、出席者全
員が見守る中、檀上の校旗が児童の
手によって外され、遠藤力校長が



遠藤校長(右)が田村市長に校旗を返納

ら、田村正彦市長へと返納されまし
た。

式典後は、記念碑の除幕式が行わ
れました。記念碑は、校門付近に建
てられていて、児童が両脇から紐を
引き、幕が外されました。碑に刻ま
れている「未来に羽ばたけひびがしつ
子」の言葉を児童全員が声を合わせ
て発表すると、集まった人たちから、
大きな拍手が送られました。

また、当日は思い出を語る会も開
催され、歴代の校長やPTA会長の
ほか、学校協力者ら4団体と14人に
感謝状が贈呈されました。贈呈式が
終わると、市の無形民俗文化財であ
る「大石平念仏剣舞」を保存会の会員
と児童と一緒に披露されました。
た。色鮮やかな衣装を身にまとい、
地域の伝統文化をしっかりと継承し
ている姿に、出席者は感動している
ようでした。

東大更小学校は、山子沢の武田小
四郎氏が、明治初期にかけて私塾で
地域の子どもたちに読み書きを教え
たことが始まりとされています。そ



伝統ある大石平念仏剣舞を披露

の後、明治9年に山子沢学校として
創立し、さまざまな改称を経て、昭
和36年に東大更小学校の名称となり
ました。縦割り班の活動が活発で、
児童たちは、班の活動を通して、リ
ーディングや協力の大切さを学ん
できました。

生徒数は、最も多い時には全校で
300人を超える年もありました
が、年々減少し、24年度は全校で24
人となりました。記録が残っている
明治34年以降、卒業生は3千人を超
え、市内外で活躍しています。

平成25年4月からは、大更小学校
に統合となります。



東大更小学校 校歌

作詞・菊池知勇
作曲・森るり子

一、岩手山いただきそめて
新しき今日はきたれり
若草の伸びたつ早起
時の間を惜しみ学ばん
学ばんわれら ああ
東大更 小学生

二、山子沢空の彼方は
明日の日の夢に燃えたり
うら若き胸おどらせて
人の道遠くさわめん
さわめんわれら ああ
東大更 小学生



ピカピカの新入生たち(昭和60年)



文化祭で発表する劇の衣装を着た6年生(昭和25年)

| 年次 | 出来事 |
|----------|---|
| 明治9年5月 | 山子沢学校として開設 |
| 明治20年5月 | 山子沢簡易小学校と改称 |
| 明治25年4月 | 山子沢尋常小学校と改称 |
| 明治39年10月 | 山後に分教場を開設 |
| 大正3年 | 校訓「礼儀・規律・勤勉」を制定 |
| 大正7年 | 現在地に校舎を新築移転 |
| 昭和4年3月 | 山後の分教場を廃止 |
| 昭和5年3月 | 教室を増築 |
| 昭和10年7月 | 山子沢青年学校を併設 |
| 昭和15年4月 | 高等科を設け、大更第二尋常高等小学校と改称 |
| 昭和16年4月 | 大更第二国民学校と改称 |
| 昭和22年4月 | 大更第二小学校と改称 |
| 昭和25年4月 | 大更中学校山子沢分教室を置く。 |
| 昭和29年 | 大更第二中学校を創立 |
| 昭和36年4月 | し、併置。校歌を制定 |
| 昭和38年2月 | 東大更小学校、東大更中学校と改称。渋川分教場を廃止し、渋川小学校として独立校になる |
| 昭和40年4月 | 創立88周年記念式典を挙 |
| 昭和50年10月 | 行 |
| 昭和51年3月 | 大更、田頭、東大更の3中学校を統合し、西根中学校を創立。その東大更校舎となる。 |
| 昭和52年3月 | 創立100周年記念式典を挙 |
| 平成6年3月 | 行。校章を制定。 |
| 平成9年8月 | 本校舎新築竣工 |
| 平成14年12月 | 落成 |
| 平成17年9月 | 校旗を作成 |
| 平成19年9月 | 現在の校舎が落成。創立120周年記念式典を挙 |
| 平成25年3月 | 行 |